



第10回 まわりにモジモジ

赤ちゃんのうちは何にも物おじせずにいろんな人に積極的だった子どもが、ある時期から、急に他の人を恥ずかしがったり、泣き出してしまうことがあります。これは「人見知り」とよばれるもので、子どもが成長する中で自然におこってくことです。いつも身近にいるお母さんやお父さんと他の人の区別がつくようになってきたからこそ、他の人に対して警戒したり恥ずかしいという気持ちをもったりします。また、だんだん大きくなると、「自分」という存在ができてきたことで、他のお友達のことも意識するようになり、それまですんなり遊んでいた同年代のお友達に対しても警戒心をもったりモジモジしてしまうこともあります。

KIDSセンターでも、いつも元気いっぱいに誰とでも関わっていた子が、ある時期急にモジモジとお母さんやお父さんの陰に隠れてなかなか出てきてくれないことがあります。そんな時は、急な変化に戸惑うこともありますよね。しかし、この「モジモジ」は自分と他人の関係を子どもなりに一生懸命理解しようとしている姿の現れとしてとらえることができます。もう少し時間がすぎれば、言葉や態度で一緒にかかわる方法を自然に身につけていくと思います。子どもにとっては大切な「モジモジ期」。わたしたち、周囲の大人もあたたかく見守っていけるといいですね。

たねラボは、金城学院大学 加藤大樹研究室による、心理学の研究成果を地域にわかりやすく伝えていく取り組みです。

